

# 道ばたに見る春の草たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

## カタバミのなかま



写真 7 4 , カタバミ  
4 月 , 中央区



写真 7 5 , カタバミ  
5 月 , 中央区

### カタバミ

カタバミ（写真 7 4 ）は、道ばたなど、人通りのあるところでよく見かけますので、これを知らない人はおそらくないでしょう。花はよく日の当たるときに開きますので、雨はもちろん、曇りのときは閉じてしまいます。ハート型をした 3 枚の葉が集まって一つの柄にくっついていきます。夜はこれら 3 枚の葉（小葉）はどうなっていますか？

根はま下に伸びたり、地表をはう茎が根を下ろしたりして、年中生き続けます。

写真 7 5 の花は写真 7 4 のものとそっくりですが、葉が赤っぽくなっています。こんなのを見たことはありませんか？ アカカタバミと書かれた本もありますが、カタバミにはちがいありません。人類に例えれば、皮膚や髪の毛がちがっていても、学問上はすべてヒトであって、ホモ・サピエン（Homo sapiens）スというのと、よく似ています。

### オッタチカタバミ

おもしろい名前でしょう。茎は花の咲く前に地表（または地中）をはう茎から高く伸び上がり、1 カ所から 2 本ほど、長い柄をつけた葉を出し、カタバミとはちがった葉のつけ方です。名前について、前と同じように例えますと、ヒトとサルがちがいのようなものです。植物に限らず、名前を付けるというのはなかなかむずかしいものです。

なおこの草は北アメリカ原産です。カタバミとちがって人の踏みつけには弱いようです。





写真 7 6 , オッタチカタバミ  
5 月 , 中央区



写真 7 7 , ムラサキカタバミ  
4 月 , 中央区



写真 7 8 , ムラサキカタバミ  
4 月 , 中央区



## ムラサキカタバミ

庭先や植え込みのふち、石垣の間など、よく日の当たるところに見かける、うすい紅色の花は、街の中ではごく普通になっています。もとは江戸時代に観賞用として持ちこまれた草花で、その原産地は南アメリカです。花は美しくても種はできませんので、地中のイモでなかまをふやします。これは無性繁殖（むせいはんしょく）というものです。

写真 77 は午前 8 時で、天気は快晴でした。写真 78 はその同じ日の午後 6 時に写したもので、すでに花は閉じていました。なお、この日は 4 月 28 日で、日の入りの時刻は午後 6 時 40 分と発表されていたから、実際に閉じたのは日の入りよりも 1 時間以上も前ということになります。

カタバミの仲間の葉を、夜に観察してみましょう。



写真 79, イモカタバミ  
5 月, 灘区



写真 80, オオキバナカタバミ  
4 月, 灘区

## イモカタバミ

さきのムラサキカタバミより色が濃く、花の中心部がさらに濃くなっています。花の大きさは 1.5cm ほどで、ムラサキカタバミより少し小さく、原産地も同じ園芸植物ですが、日本への移入はずっとおそく、やはり野生化して、人家近くの草にまぎれて人目をひきます。栽培（人の手入れ）からのがれ、自然状態で生え続けることを野生化（やせいか）といいます。

## オオキバナカタバミ

カタバミのなかまの葉は、ハート型の小葉が 3 枚集まって一組になっていますが、紫がかった褐色の小さな点々（斑点）をつけているので、花がなくてもすぐそれと分かります。

こちらは遠く南アフリカのケープタウンあたりの原産で、園芸用として移入されたのですが、野生化しているのが確認されてからまだ 40 年ほどにしかない新しい帰化植物です。花はカタバミの 3 倍ほども大きく、歩道近くの草に混じって生えているのを見ると、おもわず足が止まります。

## カタバミのなかまを比べる

	地下部	地上をはう茎	葉のつき方	葉の小班	花の色	花の大きさ	分布 / 原産地
カタバミ	主根	ある	互生	ない	黄	0.8cm	暖帯～熱帯
オッタチ...	根茎	ある	2本ずつ少しずれて	ない	黄	1.0cm	北米
ムラサキ...	鱗茎	ない	根生葉	ない	淡紅	2.0cm	南米
イモ...	塊茎	ない	根生葉	ない	濃紅	1.5cm	南米
オオキバナ...	鱗茎	ない	根生葉	ある	濃黄	3.0cm	ケープタウン

## &lt;用語説明&gt;

主根（しゅこん）：種から伸びてきた太くて長い根．それから出るのが側根（そっこん）

根茎（こんけい）：地下にある茎．横に長く伸び，節から根を下ろし，地上に茎を立てる．

鱗茎（りんけい）：根の近くにあり，茎のぐっと縮まったもの．栄養分をたくわえなかまをふやす手段の一つ．

塊茎（かいけい）：地下茎の先端に栄養分をたくわえ，かたまり状になった．なかまをふやす．

根生葉（こんせいよう）：根際から出ている葉．根から葉が出ているのではない．うんと縮まった茎から出ている．

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)